達沢山・京戸山

毎日新聞旅行　　7 日

2015 年最初の山は、昨年の暮れに引き続いて、またまた里山である。男 4 人に対して女 10 人の構成は、今年もまた山では女天国の継続を物語る。しかし天気条件は最高。前日の雨と強風とは打って変わって、快晴・無風・気温も程よいという好条件である。まさに年初登山にふさわしいという感じであるが、良いとこずくめになるほど世の中甘くはない。最初のうちはコンクリート製林道歩き。上に行くに従って、数日前に降った雪が樹林の日蔭では凍っているところが散見されるようになる。バアサマの一人が危なっかしい足取りでこれを渡ろうとしたときに、グニャグニャっと倒れた。このバアサマは昨年暮れの九鬼山でも会ったが、この時も最後の鈴ヶ尾山は自信がないからと言って登らなかった。今回

北岳

甲斐駒

は自信もクソもなく、歩き始めの 1 時間程度でまだ登山道にも入っていない所である。痛がり方が普通ではない。二人いたツアーリーダーの一人である女性の関根さん（彼女は昨年 1 月に知床でお世話になった）が付き添って降ることにしたが、無理と判断して救急車を呼ぶことにして我々は先に進んだ。写真を撮るためにいつも後ろを歩きたがる腹の出すぎのジイサマと、私より山は強いと思われる均整のとれたスタイルのバアサマが、いつも私より後ろを歩いていたが、ツアーリーダーが押田さん（昨年 5 月の武奈ヶ岳を始め何回もお世話になっている）一人になってしまったので、ここは私がラストを歩くこととする。なんたって今回のちょっと頼りない人が多そうなメンバーの中では、抜群の経験量と、落ちてきたとはいえ体力もまだまだイケるはずである。案の定山道に入ると、出っ腹ジイサマの息が切れてきた。里山特有の、距離は短いが直登に耐えきれなくなったようだ。しかし、バテ切る前に鞍部に着いてしまったので、ここで昼食。そんな時にヘリコプターの音がバリバリ聞こえる。押田さんの話では、あのバアサマが収容されたとのことである。後で聞いたところによると、大腿部骨折で入院したとのこと。怖いねー。

達沢山（1358m）は鞍部から 25 分で着く。快晴なのに樹林帯の中であるので、北岳などは木の間からしか見えない。歩いている途中で見渡せるところでは、北岳を最頂部とする白根三山や、悪沢岳とその後ろにそびえるこの山塊の名主である赤石岳、そして方向を転ずれば八ヶ岳と奥秩父、さらに遠くには北アルプスさえ見える。

また鞍部へ戻って京戸山へ向かう。途中にナットウ箱山なる変な名前の山を通る。押田さんが“昔の人ならナットウ箱と言われてわかるでしょうが”と説明を加えるが、私は三角形のナットウ箱と言われてもピンとこない。藁に包まれた奴ならわかるのだが。京戸山（1430m）の方が達沢山より高いのであるが、この辺の道標は達沢山への道しるべばかりである。なんでだろう。さて、私がラストを歩いた効果が出た。私より年上と思えるバアサマが足がツッタと言って遅れ始めた。山の経験は多そうであるが、やはり歳の所為であろう。彼女は“後から付いて行きます”と強情を張るが、あの後ろを歩くのが好きなスタイルのいいバアサマが私を含めて“3 人で歩きましょうよ”と言って、彼女が先に、私がラストになって歩いた。足をつらしたバアサマも行ったことがあるという、キリマンジャロの話などをして気を紛らわせてやった。ちょっと雪があるとまたツッタリしていたので、効果はあった。おかげで帰りの風呂上りには生ビールの御馳走にありつけた。年の功よ。

ナットウ箱山

京戸山